

2020

10-11月

はしかけニューズレター

2020年度 第4号 通巻155号

2020年(令和2年)10月1日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 中川・八尋)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

(注意) 平成30年11月よりHPアドレスが変更になっています。

～ 目次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
(4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
(7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) 湖(こ)をつなぐ会 (10) ザ! ディスカバはしかけ
(11) 里山の会 (12) 植物観察の会 (13) たんさいぼうの会 (14) 田んぼの生きもの調査グループ
(15) タンポポ調査はしかけ (16) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
(18) びわたん (19) ほねほねくらぶ (20) 緑のくすり箱 (21) 虫架け (22) 森人 (23) 琵琶湖梁山泊
(24) サロン de 湖流 (25) 水と暮らし研究会 (26) 海浜植物守りたい

3. 生活実験工房からのお知らせ

4. その他の事項

会員数 ... 342人

グループ数 26グループ

(2020年10月1日現在)

1. 事務局からのお知らせ

秋冷が爽やかに感じられる好季節、はしかけ会員の皆様におかれましてはますますご活躍のことと存じます。

さて、9月27日にはおおよそ1年ぶりに「はしかけ登録講座」を開催いたしました。この日を待ちわびておられた方も多く、たくさんの方に受講頂きました。皆様のはしかけ制度への期待を強く感じた次第です。今後とも現会員の皆様、新しく会員になられる皆様と「はしかけ制度」を益々盛り上げていけるよう努力していきたいと思っております。

また、毎号繰り返になりますが、新型コロナウイルス感染症に関する状況は日々刻々と変化し、今後も予断を許さない状況です。皆様におかれましては、今後とも対策を入念に行って活動して頂くとともに、「体調がすぐれない方は無理して参加しない」などの声かけもお願い致します。

さて、事務局より以下2点の連絡がございます。

■びわ博フェスについて

本年度のびわ博フェスについては中止となります。楽しみにして下さっていた方もいらっしゃると思いますが、社会情勢を鑑み、ご理解の程、よろしくお願い致します。

■オープンラボの利用について

現在、はしかけ活動の際にオープンラボを利用することも可能ですので、積極的にご活用ください。使用の際には担当学芸員を通じ予約を行ってください。また、以下の点にもご留意ください。

- ・おとなのディスカバリールーム開館中に利用する際には、活動状況を来館者にも見て頂けるよう心掛けをお願いします。
- ・来館者から、活動に質問があった場合、応答をお願い致します。

(中川 信次)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ代表アドレス: hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松田 征也

【活動報告】

■7月19日(日) 第152回定例調査 場所:石田川、寒風川(北川) 参加者:11名

東京・大阪のCOVID-19ウイルス感染のニュースが気になる中でしたが、梅雨明けを思わせるほどに美しく晴れあがり、田んぼの稲がさわさわと風になびいて、非常に気持ちの良い調査となりました。

参加者は11名、中尾さん率いる1班による北川上流部(寒風川)と石井さん率いる2班の石田川上流部の、2班体制で調査を行いました。北川は県境を超えて、福井県に流れ出る河川です。どちらの班もカワムツ、タカハヤを中心に、その他数種類を確認することができました。強い日差しでしたが、川に入ると涼しい風が上流から吹いてきて、気持ちよく調査が進みました。1班はヒルの洗札を受けながらも、サンショウウオの幼生を確認し、大変貴重な体験ができたとのことでした。

調査に参加する日は体温を測り、37.5℃以上であったり、体調が芳しくない場合は、参加を見合わせて、元気回復を最優先にこころがけてください。体調管理に気をつけて、みなさん元気に参加できるようにご配慮ください。

(報告:手良村知央)

■8月29日(土)瀬田川釣り調査 場所:瀬田川 参加者:9名

2回目の瀬田川夜釣り調査、集合時は晴天で少し暑かったものの、準備をしているうちに涼しくなってきました。各自が持参した餌は、サシ虫、イカの塩辛、貝ヒモ、スルメ、魚肉ソーセージ、小アジ、鶏レバー等。妙におつまみ系が揃っています。

明るいうちは、サシ虫の餌にブルーギルとオオクチバスの稚魚が連発。イカの塩辛にもブルーギル。貝ヒモ、スルメはふやかしても固いようで、アタリはあっても食い込まないようです。

私(中尾)は持参した「ペットボトル仕掛け」(糸を適量ペットボトルに巻き、オモリと針、餌をつけて放り込み、ペットボトルが倒れる音でアタリをとり、手で魚を上げる)にアジの切り身をつけ、2本投入。離れた場所で電話中に「中尾さん」と呼ぶ声。慌てて戻ると、ペットボトル仕掛けに在来種のナマズがかかり、石井さんが上げて下さっていました。

しばらく後、青木さんが電気ウキ釣りで50cmほどのニゴイを釣り上げました。今回は初の釣りとのことで、初釣果が大きなニゴイとは、珍しいケースではないでしょうか??

20時すぎ、雷鳴が聞こえはじめ、直後、豪雨が!慌てて片付け、南郷公園に戻ります。いったんここで解散しましたが、雨は少し待つと止み、私と澤田さんは前回に続き居残りです。洗堰下流へ移動し再開するも、ブルーギルやニゴイのアタリすらなく、何も釣れませんでした。

結局、今回も新顔外来種のチャネルキャットフィッシュは1尾も釣れませんでした。とは言え今回は他の魚もあまり釣れなかったのも、ちょっと不完全燃焼でした。

(報告:中尾博行)

【活動予定】

■10月18日 比良～北小松周辺小河川

■11月15日 余呉川

■12月20日 祖父川、惣四郎川等



シマドジョウ類(7.19)



ニゴイ(8.29)



寒風川での調査の様子(7.19)



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 一名】

グループ代表アドレス: hashi-junrei-rekishi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 橋本 道範・渡部 圭一

【活動報告】

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で活動を休止しています。

【活動予定】

蓄積データの編集などの作業を中心にして今後の活動計画を見直す。

(福野憲二)

*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 榎永 一宏

【活動報告】

■8月23日(日) 琵琶湖博物館にて吟行等(2名)

【活動予定】

○10月の活動

■10月25日(日)

近江八幡市の牧場へ馬を見に行きます。

賀茂神社裏手に10時30分集合。

少雨決行

*判断に迷う場合は、お問い合わせください。

○11月の活動

■11月15日(日)

陶芸の森(甲賀市)の付近をスケッチや吟行をします。

集合時間、集合場所については後日参加者へ連絡をさせていただきます。

※初めて参加される方は080-5709-8634(金山)までご連絡ください。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部 圭一

【活動報告】

織姫の会

■7月22日(水)(参加者:7名)

綿やカラムシなどの繊維で糸づくり。藍染に行く準備をはじめました。

■9月12日(土)(参加者:3名)

3ヶ月ぶりに活動を再開しました。久しぶりに大勢集まったので、近況報告から。

作業は中断していたスカリ作り。苧績みした麻を使って作りましたが、買った糸より硬く、太さが一定でないので結びにくく、作るのに苦労しました。

【活動予定】

■織姫の会

9月30日(水)、10月10日(土)、28日(水)、11月11日(水)、28日(土)

■藍染

10月から11月くらいに藍染に行きます。希望者は連絡してください。

(辻川智代)



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ代表アドレス: hashi-ganseki@biwahaku.jp

グループ担当職員: 里口 保文

【活動報告】

■2020年07月の活動

○7月25日(土) 午後: 新型コロナ対策後の最初の屋内勉強会(参加者13名)

実習室1で、「屋内での勉強会」を感染防止に配慮し、常時換気、窓は網戸を使用し解放、マスクは全員着用、また、1時間ごとに15分ほど外に出る時間も作り下記の通り実施した。

・内容

- ①最近の野外調査の纏めの報告とその質疑討論、②色々調査したが分からない石の質問、③自慢したい石のPR等々、④今後の予定等の立案

・詳細実施内容: 講話・報告・質問・PR関係

①中野さんの講話「湖東・織山の腰越溶結凝灰岩層」等に関するお話

1980年代の早い時期に、溶結凝灰岩に関して、ご自身が学生とともに研究した時、丹念に露頭を掘って、その状況を記載し、それを持ち帰り、岩石の構成要素である斑晶や石基等を丹念に調べ、さらに薄片にし、纏めたお話であり、岩石の調査・研究の基本と思われ、参考になる講話であった。なお、中野さんらが注目した岩石というか地層は、6月の織山の野外調査で中村さんや梅澤も気になった層状の岩に関するものであった。

②中村さんらの報告

昨年に調査した多賀町の高取山と6月に調査した織山の纏めを報告して頂いた。堂々とした報告であった。両調査地点とも溶結凝灰岩に関するものである。皆さんのご指導をよく体得し、比較項目も含め、よく纏められていた。最後に、両調査地点の纏めをし、更に噴火の回数まで推測した。噴火の回数の推測には異議も出たが、結論を出す思考方法の勉強にもなったものと思われる。

③この岩石は何ですか

花崗閃緑岩とマイロナイトは分かったが、不明の岩もあった。皆さんの関心は岩石はもとより、カエルなどにも注がれ多くの不思議に遭遇していることが垣間見られた。

④今後の計画等 梅澤

地学の勉強会

- A. 以前のアンケートで地学の基礎の勉強をしたいとの提案があった。9月から具体化したい。
- B. 梅澤が参考書の提案をしたが難しいとして幾つかの書籍の提案があった。後日、再提案。
- C. 勉強会は担当者を決め、各回の報告は順番に行う方式とすることにした。
- D. 勉強時期 2020: 9月、2021: 1月、2月、7月、8月

■2020年08月の活動

○相模川源流域調査

休息主体の調査行を計画したが、事前調査で、例年であれば涼しいところも、今年は極めて暑いので中止した。

【活動予定】

■2020年9月の活動予定

下記の通り実施します。

1. 日時 2020.09.27(日) 13:30 - 15:45 後かたづけも含め15:45には終える。
2. 場所 琵琶湖博物館・第1実習室
3. 勉強会と交流会
 - (1) 勉強会: 村上さんから「地学基礎」を参考にした地学の講話を聴講する。
 - (2) 交流会: 質問したい岩石や自慢したい石のPR等、10月以降の予定の確認。



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 一名】

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾 滋史

【活動報告】

■7月25日(土) 10:00~12:00 参加者: 8名

総会の開催、今年度の活動計画策定

今年初めての集まりとなり、長らくできていなかった今年度初めての活動を行いました。今年度は大橋コレクションの整理が完了間近であることなども踏まえて、大橋コレクションの写真の撮影場所を求めて、もう一度同じ場所、同じアングルの写真を撮影していこうということになり、それらに向けた年間活動計画を決めていきました。

■8月18日(火) 10:00~12:00 博物館実習室2 参加者: 4名

大橋コレクション整理作業

全体の整理が終わり、過去にチェックされたが、温故写新としては整理されていないおよそ800枚の写真チェックを行いました。

■8月22日(土) 10:00~12:00 参加者: 9名

9月~11月撮影会の準備

大橋コレクションの写真と同じアングルの写真を撮るため、主に彦根市内の写真をチェックし、どのようなルートで回るかを検討しました。

【活動予定】

■9月26日(土) おでかけ撮影会 in 彦根 JR彦根駅 10:00 集合

■10月24日(土) おでかけ撮影会 in 大津 JR大津駅集合

■11月28日(土) おでかけ撮影会 in 彦根第2弾 JR彦根駅集合



(7) くらしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 一名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部 圭一

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ代表アドレス: hashi-hakutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川 千代美

【活動報告】

■多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業

①日時: 2020年7月26日(日) 13:00~15:30

場所: 琵琶湖博物館 実習室1 参加者: 5名

活動内容: 多賀の発掘現場で採取した土を丁寧に小割りしながら水洗したり顕微鏡で観察し、微小な化石を探す作業を行いました。作業を行いながら、それぞれが興味を持って自主的に勉強していることや、今後の活動についても話し合いました。

②日時: 2020年8月18日(火) 13:00~15:30

場所: 琵琶湖博物館 実習室1 参加者: 3名

活動内容: これまでと同様な作業の継続を行いました。根気のいる作業が続きますが、作業の方法等も模索しながら丁寧な作業を心掛けました。



■屋外活動に向けての下見

日時：2020年8月2日(日) 10:00~12:30

場所：滋賀県湖南市吉永(野洲川) 参加者：5名

活動内容：今後の屋外活動に向け、地層の様子や危険箇所等について下見を行いました。初めてこの現場に来たメンバーもいたので、参加したメンバー同士で、今までにこの現場で経験したことや学んだことを説明したり、教え合いながら活動を行いました。



【活動予定】

■多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業

①日時：2020年9月18日(金) 13:00~15:30

場所：琵琶湖博物館 実習室1

②日時：2020年9月23日(水) 13:00~15:30

場所：琵琶湖博物館 実習室1

③日時：2020年9月29日(火) 13:00~15:30

場所：琵琶湖博物館 実習室1



(9) 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) — 名】

グループ代表アドレス: hashi-ko-tunagu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】

■ 活動なし。現在の博物館への入館の状況を考えると、子どもたちを集めての紙芝居の上演や合唱を実施することは難しいと考えている。今後の新型コロナウイルスの感染状況も見据えた、会の活動方法を考えたい。

【活動予定】

■ 未定



(10) ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) — 名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 妹尾裕介、大槻達郎

朝晩はすっかり涼やかになり、秋が深まってまいりました。キキョウやハギなど秋の花も楽しみです。いまだ新型コロナウイルス感染症対策のため、残念ながら活動はできていませんが、今後、たくさんの笑顔がみれるイベントを実施できることを祈っています。

【活動報告】 なし

【活動予定】 現在調整中、詳しい内容はメールで問い合わせください。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に妹尾・大槻まで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましょう！

また、ザ! ディスカバはしかけでは、定期的にイベントを開催しています。ぜひご参加ください。



(11) 里山の会

【活動報告日の活動会員数 8名】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山本 綾美

【活動報告】

■ 8月8日(土) ハンモック虫干し作業 参加者8人

参加者8人が生活実験工房に10時集合! さっそく赤や青の布、ロープなどなど周りに干してから、工房裏でセッティング練習と乗り心地のチェック! 参加してくれた子供たちに喜んでもらいました🎵

当日は暑かったので…大人たちは早々にクーラーの近くに! (熱中症対策)。

活動中は人と人の間を空け、もちろんマスク着用、お弁当時もソーシャルディスタンス!!。💧気を遣いながらの活動でした。

午後布の取り込み ⇒ みんなでワイワイお日様の匂いに包まれて仕舞いました、また来年ね。(柳原)

【活動予定】

■ 10月3日(土) 里山体験教室 下見

■ 10月11日(日) 里山体験教室 本番



(12) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ代表アドレス: hashi-shoku-kan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

秋分間近となり、ススキの穂が出始め、クズの花が満開となっています。

しかし、気温が高く豪雨の地域も多々あり、我が三重県北部も先日、短時間に70mmを超える雨量を記録しあちこちで浸水被害が出ました。被害に遭われた方々へお見舞い申し上げます。一度に降る雨の量が尋常でないくらい増して来ている気がします。

【活動報告】

■ 8月2日(日) 猛暑(熱中症予防)のため 休止

今年は、梅雨明けが遅かった(8月1日)こともあり、熱中症予防(湿度が高く熱中症指数が高い)のため、中止。

■ 9月5日(土) お出かけ観察「水草観察 ③」長浜市 豊公園北 参加者7人

熱中症予防のために8月を取り止めたものの、9月の猛暑もやはりそれに値するものでした。この日もお昼に33℃でした。ただ、胴長や水着で湖内に入ったため、それほど暑いとは感じませんでした。

芦谷先生に解説して頂きながら10時過ぎから観察を始め、12時30分ごろ終了。このままあと2時間は入っていられるなあ、と思う中、予定時刻が来たため強制終了しました。お昼ご飯抜きで良いからもっと入っていたかった、との声も・・・。

今回観察できたのは、次の10種。

ササバモ(葉柄があることで見分けられる)、ヒロハノエビモ(葉が短い目で、葉柄がなく茎を抱く)、オオササエビモ(ササバモとヒロハノエビモとの交雑種、葉柄がない)、この3種は混在することが多いとのこと。トリゲモ、オオトリゲモの両方があり、見比べることが出来た。トリゲモは全体が硬いが、オオトリゲモは葉先にかけて柔らかくなり水から上げるとペタンとお互いにくっついてしまう。クロモ(葉に細かい鋸歯がある)、ホザキノフサモ(一つ一つの葉を開くと鳥の羽根の形)、ヒシ(水中葉が根のように連なっている、葉の浮き袋も分解して観察、花から結実までの様子も見られた)、ネジレモ(地下茎での増え方を観察)、コウガイモ(葉や根の部分がざらざら)、イバラモ(雄株、雌株)。

花が見られたのは、オオササエビモ、クロモ(細いガラス細工のような3mmほどの花)、ヒシ、ネジレモ(花の花茎は真っすぐ水面まで立ち上がる、結実するとバネのようにねじれが出る)、イバラモ(雄株は花の部分が水中できらめく感じで見られ、不思議だった)。

結実は、オオササエビモ、ヒシ、イバラモ(雄株と雌株は実に柱頭があることで見分けられる)。

観察の中で、①ネジレモはなぜ葉がねじれるのか、ササバモなどもなぜ葉が波打っているのか、②群落のように株は大きくなるのか、③流れ着いて定着するにはどんなパターンがあるのか、などの疑問も出てきました。

今回は、当初予定していた場所に重機が入る工事が行われていたため、急遽場所を変更して行いました。急な変更にもかかわらず対処して頂いた芦谷先生、ありがとうございました。

【活動予定】

- 月に1回、**第1日曜日の午後**を予定しています。遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。外部で行う観察会は、年に数回、みなさんにも呼びかけを行う予定（しばらくは、密を避けるためにも行いません）です。このニューズレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいます。
- **10月4日（日） 博物館 樹幹トレイル周辺の観察**
場所：博物館 樹幹トレイル他
時刻：9:45 集合 生活工房 あたり ~12:30 ごろまで
- **11月1日（日） 未定**

※11月以降の計画は、メール等で相談し、決める予定です。

この活動に興味のある方は、メール（上記メールアドレス）にてご連絡ください（^o^）/
当日、直接、実習室や現地へ来ていただいても結構です。



(13) たんせいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21名】

グループ代表アドレス: hashi-keisou@biwahaku.jp

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

8月以降、集まっただけの活動は全くできていませんが、何人かの会員は琵琶湖博物館で、あるいは自宅で研究活動を進めています。ところが8月中旬になると、頼みの綱である交流室の顕微鏡、Nikon Eclipse 80iの電源が入らないことが多くなりました。修繕に出すと基盤の交換が必要で、サポート期間が終わっているのに20万円近くかかるとのこと。そこで従来の光源を放棄し、外付けのLED光源（7万円+消費税）をつけることにしました。

ところがこのLED光源、従来のハロゲンランプに比べて扱いが難しいのです。まず、コンデンサ絞りを開放するとコントラストが極端に下がって撮影がしづらくなるので、コンデンサ絞りを多少絞って撮影する必要があります。また、従来の光源では光学顕微鏡の限界に近い分解能、たとえば10μmあたり40本ほどの条線が試料の状態次第でどうにか撮れていたのですが、これがどうしても撮れなくなり、通常の光路系では10μmあたり35本ほどが限界になりました。調べてみるとLED光源では、波長が短い部分を担う青色発光ダイオードが出す光の波長は藍～青緑（430～520nm）で、波長が最も短い紫色の光（380～430nm）を発しないからだとわかりました。顕微鏡の分解能は光の最も短い波長に比例するので、これだと解像度が1割あまり落ちるのは当然と言えば当然です。しかし防眩フィルタを入れると青色発光ダイオードの藍～青の光だけになり、長波長の光をほぼカットできるので、従来よりも像はシャープになります。今後、この新しい光源装置との付き合い方を考えながら研究を進めていくこととなります。

【活動予定】

集まらなくてもできる活動を、それぞれに進めていきます。藤ヶ鳴湿原（岡山市）および頼田公園湿地（大津市）の珪藻については、すでに論文を書き始めています。個人研究では、藤前干潟（名古屋市）の珪藻植生研究が受理目前まで来ているほか、メダカの水槽に出現した珪藻の研究も同定を完了し、論文を書き始めています。日本珪藻学会研究集会のオンライン開催がほぼ決定したこともあり（日程は未公表）、なるべくここで研究成果を発表していきたいと考えています。

他にも、古琵琶湖層群蒲生層の古環境の研究、古琵琶湖層群甲賀層の化石珪藻の研究、愛知県の鈹質土壌湿地群の珪藻植生研究、曾根沼・野田沼（彦根市）の珪藻植生研究などを進めています。



(14) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

厳しい暑さに悩まされた夏もようやく終わり、日に日に秋の気配が感じられるようになってきました。あちらこちらの田んぼで稲刈りも終わり、田んぼのエビたちは長い休眠期間に入ったものと思われます。コロナ禍で人々の生活様式が大

大きく変わったことにより、人間の営みと強い関連をもちながら生息してる身近な生きものたちに、どのような影響が出たのかも気になるところです。

【活動報告】

本年度は、主たる調査地域を、2種のカブトエビが生息していると思われる、大津市の瀬田・石山寺地区の45筆前後の水田に絞り込み、それぞれの田んぼについて、数日の間隔をあけて3~4回の調査を行いました。2種のカブトエビの競合状況を明らかにすることが目的であったため、いずれの調査日においても1筆あたり10個体、または、それ以上のサンプルを採取しています。そのため、同定すべき個体数は2000を超えることになりました。そのため、2020年8月27日(木)、30日(日)、9月6日(日)、8日(木)いずれも11:00~16:00の4回にわたり、琵琶湖博物館の実習室1で同定会を行いました。数ミリ程度の小型の個体から、背甲正中線の長さが25mm超、頭端から尾鞭端までの長さが70mmを超えるような大型の個体まで、大きさもさまざまであり、トゲの形状も個体差が大きいため、同定に苦労する場面も多々ありました。同定結果の詳細な分析はこれからですが、昨年までの年に1度の調査では見落とされていた新しい結果が見えてくるものと期待しています。



アメリカカブトエビの尾節背面のトゲ

【活動予定】

例年秋に結果報告会を行っていますが、本年度の実施日は未定です。分析結果がまとまり次第、メールで日程調整を行う予定ですので、しばらくお待ちください。

(山川 栄樹)



(15) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) — 名】

グループ代表アドレス: hashi-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

<「タンポポ調査・西日本2020」実施中>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。5年に1度2年にわたって実施される広域調査ですが、ついに来る3月から「タンポポ調査・西日本2020」の調査が始まり、2020年に本調査を実施し5月31日に調査期間が終了しました。

<「タンポポ調査・西日本2020」の調査期間を延長予定>

今回の新型コロナウイルスの感染防止対策として、すべての参加府県で、広く参加を呼びかけるイベントや行事が中止になっているため、本調査事務局では調査日を2021年まで延長して実施することを決めました。実際には府県ごとに方針を決めることとなりますが、滋賀県では2019年、2020年の結果を検討して、2021年には調査データの少ない地域や種類(雑種のタンポポがデータに上がりにくい)を補足的に調査する予定にしています。

【活動報告】

なし。

【活動予定】

現時点で決まっている行事はなし。



(16) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: hashi-chikoaso@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大久保 実香・中村 久美子

【活動報告】

◆コロナ対策をして活動を行いました。

◆8月の活動 8/26(水)

これまで8月は夏休みとしていたのですが、初めて夏休みに実施しました。3組の親子が暑い中ですが、生活実験工房の自然で遊びました。綿繰り機を回してみたり、ガチャコンポンプで水遊びをしたり、アリの巣を見つけじっと眺めたりと、すべてが遊びと発見にあふれています。0歳のお子さんもお母さんと一緒に、ちこあそデビュー。それぞれのペー

スでゆっくりと楽しみました。

◆9月の活動 9/16(水)

大津市内の小学校、幼稚園が休校園となり、いつものちこあその子ども達の兄弟世代もちこあそで楽しんでくれました。今回は1歳から7歳までの10名の子ども達が来てくれ、久しぶりににぎやかなちこあそとなりました。来館の親子にもアピールした結果、当日参加の方もおられ「こんな楽しいことやってるんや、もっと前から知ってたらなあ。」と話してくださいました。久しぶりの秋晴れで、ガチャコンポンプで水遊びやトンボやチョウを追いかけての虫取り、親子での数珠玉遊びなど、たっぷり遊んでくださりました。

※ちこあそは、生活実験工房周辺の展示空間の自然で活動しており、屋外活動ですので、感染のリスクは低いのですが、幼児が密接になり遊ぶことは避けられません。三密を避け、また社会的な理解を得ながら活動できるように実施しています。

WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。http://blog.goo.ne.jp/eco-macha をご覧ください。



8/26 ガチャコンポンプで水遊び



9/16 バッタやカエルもたくさんいるよ



9/16 数珠玉でブレスレットができたよ

【活動予定】

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
10月	10月21日(水) 10:00-14:00	ちこあそ10月	※毎月おおよそ第3水曜日に行っています。 コロナ禍のため実施についてはその都度判断します。 ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチ過ごします。
11月	11月18日(水) 10:00-14:00	ちこあそ11月	※毎月おおよそ第3水曜日に行っています。 コロナ禍のため実施についてはその都度判断します。 ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチ過ごします。

新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚 泰介

【活動報告】

■ 8月22日(土) (参加者6名+学芸員1名)

博物館でプランクトン観察を行いました。いつも通り烏丸半島の船着き場で採集を行いました。採集場所が同じでも見つかると変わるプランクトンが季節の移り変わりを感じる事が出来て楽しいです。今回は夏に出現するワムシ *Laciniaria racemovata* が多く見られました。群体性のワムシで群体サイズが2mmを超えるため肉眼でも観察できます。泳いでいる姿が面白いので機会があれば皆様も探してみてください。

また、今回は米原高校の地学部の方々が見学にいらっしゃいました。普段、珪藻化石の研究をしている方々ですが、生きているプランクトンを観察する機会は少ないようで夢中で顕微鏡を覗いていました。

■ 9月12日(土) (参加者8名+学芸員1名)

博物館でプランクトン観察を行いました。烏丸半島の船着き場、赤野井湾、瀬田川の3か所それぞれの出現種を記録し



(18) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: hashi-biwatan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 由良 嘉基・奥野 知之

【活動報告】

■ 9月12日(土) 「船deアート!」中止

琵琶湖博物館は、長い休館から抜け出し、一般の来館を迎えるようになりましたが、感染拡大防止・人数制限・整理券配布のこともあり、従来通りのわくたんの活動を行うことが困難となりました。

誠に残念ではありますが、メンバーの安全・お客様の安全が確保できるまでわくたんは中止となりました。今年できなかったプログラムは来年にぜひ実施したいと考えています。

【活動予定】

■ 未定



(19) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ代表アドレス: hashi-hone-hone@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中川 信次

【活動報告】

■ 7月26日(日) 参加者2名

ネコの解剖、イタチの解剖、を行いました。

■ 8月9日(日) 参加者3名

ネコの解剖、イタチの解剖、フナの組み立てを行いました。

■ 8月15日(土) 参加者1名

イタチの骨のクリーニングなどを行いました。

■ 8月29日(土) 参加者4名

ネコの解剖、クマの頭の解剖、クマの頭骨のクリーニング、ウサギの骨のクリーニング、を行いました。

クマの頭部の標本制作は博物館の学芸員さんのからの依頼で、展示室で使ってもらうために作業しました。

複数の個体をお預かりして、クリーニングと状態をみて修復が必要なものは、今後修復を行っていく事になると思いますが、修復がなかなか難しそうなのがあったので、何とかきれいにして来館者の方に使ってもらえるようにしたいと思います。

■ 9月6日(日) 参加者2名

ネコの解剖、クマの頭骨のクリーニング、バイカルアザラシの足の骨のクリーニングを行いました。



▲8/29、9/6に行ったクマの頭部の骨のスケッチです

【活動予定】

10月、11月の詳しい活動日は現在未定ですが、月に3回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。



(20) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ代表アドレス: hashi-midori-k@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

■ 9月6日(日) 10:00~15:00 場所: 実習室2 参加者: 13名(子供1名を含む)

活動内容: 草木染め(午前)

今回はメンバーにも人気の草木染めを実施しました。担当のメンバーで事前にリハーサルをして、Wits コロナグッズとしても人気のマスクと、シルクの布を、薔薇の花びら、ビワ、茜、くちなし、くるみで染めることになりました。

薔薇、ビワ、茜、くちなしは事前に用意しましたが、くるみは、葉っぱと実を琵琶湖博物館で当日採取しました。染液の作り方は、植物によって違います。薔薇はクエン酸を加えて色素を取り出しますし、ビワは重曹を加えることによって、リハーサルの時よりもより鮮やかな色が出ました。

媒染液も、焼きミョウバンを使ったアルミ媒染と、錆びた釘と食酢で作った鉄媒染の2種類を用意して違いを試してみました。

染める素材によっても色が変わります。マスクに使った木綿、100%ウールの毛糸で作ったポンポン、着物に使われるシルク（絹）では、色に違いが出るので、いろいろな発見があり、とても楽しい活動になりました。

(参加者の感想)

- ・自然のものを使って、素敵な色合いに染まったマスクをつけるのがとても楽しみです。
- ・媒染によって仕上がり具合が随分違うことがよくわかりました。
- ・同じ染料でも媒染や時間や水だけでも変化するし、同じ作品にはならない面白さに感激しました。
- ・草木染の奥深さを体験させていただきました。染まってみて手にするまで、出来上がりがわからずドキドキしながらの作業でした。
- ・マスクはピワで染めてみましたが、出来上がりはピンク系の仕上がりになり、乾かすと表は茶系、裏はピンク系と色が異なり、不思議でした。
- ・草木染の工程や媒染剤、植物の色素のことなど詳しい資料を作っていただき、興味深く読ませていただきました。
- ・小学生の子供参加させていただいたのですが、野外でくるみの葉を採取するところから、染め上がりを手にするところまで体験でき、興味を持たれたようです。



活動内容：携帯石鹸作り（午後）

一昨年、昨年に続きメンバーに人気のMP ソープを使った石鹸づくり。今年度はWith コロナを意識して石鹸がない場所に便利な携帯石鹸を作りました。MP ソープは、溶かして注ぐ Melt&Pour という意味で、別名グリセリンソープとも呼ばれます。

今回は、市販されているリップクリームのように、回すと少しずつ出てくる容器に MP ソープを流し入れれます。MP ソープ（透明、色付きを準備）をビーカーに細かくして入れたら、電子レンジで液体に溶けるまで加熱し、ヨモギやターメリックなどのハーブの粉末や、ローズマリー、レモングラス、ゼラニウム、ペパーミントなど、好きな香りの精油を入れ容器に注げば完成です。

素敵な携帯石鹸を鞆に忍ばせて使うのが楽しみだという声が多かったです。



■9月9日(水) 10:00~12:00 場所:生活実験工房 参加者:5名

活動内容:季節の植物でアロマウォーターを作ろう

事前に乾燥した日本ハッカと楓の水蒸気蒸留を行いました。日本ハッカは非常に精油成分の含有率が高い植物で、乾燥したものの自体もよく香りがしていました。楓は博物館の太古の森の展示植物です。

1回目は日本ハッカ(乾燥)100%、2回目は日本ハッカと楓(楓は博物館で採取、生のまま)で蒸留を実施しました。蒸留したハーブウォーターにお好みでラベンダーやレモンの精油を加え、ルームスプレーを作りました。

日本ハッカは、マスクのスプレーとしてもぴったりです。いつものように蒸留器に残った煮出し汁で、手浴も行いました。

当日、一般の方は3名の参加がありましたが、日本ハッカの強い香りにびっくりされ、好きな香りのルームスプレー作りをととても喜んでおられました。



今後の活動予定

- 10月19日(月) おごとハーブガーデン見学&ワークショップ
 - 11月8日(日) こんにゃく湿布(生活実験工房)
 - 12月2日(水) 季節の植物でアロマウォーターを作ろう(生活実験工房)
 - 12月13日(日) しめ縄作り(生活実験工房)
 - 12月20日(日) 博物館実施のしめ縄作り(生活実験工房)
- 時間等、詳しい内容はその都度連絡します。



(21) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ代表アドレス:hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員:八尋 克郎

【活動報告】

■9月13日(日) 18時~22時 ライトトラップ

大津市にて

参加者:13名

7、8月は新型コロナウイルスの影響で調査ができていませんでした。

今回も新型コロナウイルス対策として、マスク着用・社会的距離の確保などを行いながら活動しました。

定点調査として、前回6月と同じ場所で調査を行いました。風が強い影響か昆虫は前回より少なめでした。特に甲虫類はほとんど現れませんでした。蛾や水生昆虫は僅かに飛来しました。



【活動予定】

新型コロナウイルスの影響で予定が不透明ですが、可能であれば1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会をしたいと考えています。

山地などで昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の分布調査をしています。

※都合により、新規会員の募集は当面見合わせております。(文責：梶田)



(22) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ代表アドレス: hashi-morihito@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】

■外部観察会(帰帆島周辺) 7月25日(土) 10:00~12:30頃

集合場所: 帰帆島公園駐車場 参加者: (会員) 0名 → 雨天のため中止した。

■外部観察会(瀬田公園) 8月8日(土) 10:00~12:30

集合場所: 瀬田公園第二駐車場(大津市一里山) 参加者: (会員) 6名 博物館職員: 林

内容: 7月11日に雨天のため中止した観察会を実施した。瀬田公園の下長尾池、上長尾池周辺と森の中の自然観察路を散策した。暑さの中マスク着用での観察はかなり厳しかったが一面の緑の中で純白のサギソウの花を見ると幾分涼しげな感じになった。下長尾池の周辺ではカモノハシ(花)、カンガレイ(花)、ヒメガマ(実)などの比較的大きな植物に交じってミミカキグサ類(花)やヒメオトギリ(花)など、多くの小さな植物が花や実をつけていた。上長尾池周辺の湿地ではシダ類やカヤツリグサ類などの背丈の高い植物の侵入がありサギソウなどの小さな植物を保護するために定期的に草刈りが行われている。クロバイ、ヨシ、サギソウ(花)、ノリウツギ(花)、イソノキ(実)、ハンノキ(実)、ウメモドキ(実)などが見られたが氷河期の遺存種と言われるヤチスギランは見つからなかった。この池の水源と思われる森の水路では不法投棄されたごみが散見され水質の富栄養化が懸念される。池ではカイツブリ、ショウジョウトンボ、チョウトンボ、タイワンウチワヤンマ、ギンヤンマ、シオカラトンボなどが見られた。森ではノギラン(花)、ササクサ(花)、ヤブラン(花)、ハナミョウガ(実)、ウバユリ(実)などの植物とキイトンボやオオケマイマイが見られた。公園の樹木ではユリノキ、クスノキ、アカメガシワ、アメリカフウ、タブノキ、ナンキンハゼ、マテバシイ、メタセコイア、ヤマコウバシなどが見られた。

主な動植物の写真



左からカモノハシ (雌蕊)、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ



左からサギソウ、ノギラン、キイトンボ

■外部観察会 (帰帆島周辺) 9月12日(土)10:00~12:30頃

集合場所：帰帆島公園駐車場 (草津市矢橋町) 参加者：(会員) 4名 博物館職員：林

内容：7月25日に雨天のため中止した観察会を実施した。公園の子供の広場、大原っぱ広場周辺と湖岸沿い遊歩道を散策した。クヌギ、アベマキ、シラカシ、アラカシ、マテバシイ、サルスベリ、メタセコイア、センダン、アキノレ、エノキ、ラクウショウ (ヌマスギ)、スダジイ、シナサワグルミ、トチュウ、イチイガシなどの樹木とタンキリマメ、ヒシ、カエデドコロなどの草本を観察した。

草本は草刈りがされているため観察するものが少ないが樹木は大木のわりには手の届くほどの近さで観察できるものが多い。



写真左はアベマキのドングリとマルタマフシの一種、中央は地上に落下したマルタマフシの一種、右はマテバシイのドングリ



写真左はサルスベリの花、中央はメタセコイアの球果とひも状の雄花の蕾、右はヌマスギの球果とひも状の雄花の蕾



写真左はシナサワグルミの大量の果実、中央はトチュウの翼の付いた果実、右はカエデドコロ（雄株）

【活動予定】

■日時：9月27日（日）10：00～12：30頃

集合場所：琵琶湖博物館職員駐車場

内容：琵琶湖博物館周辺の観察会

■日時：10月10日（土）10：00～12:30頃

内容：外部観察会（場所は検討中）

■日時：10月24日（土）10：00～12:30頃

内容：外部観察会（場所は検討中）

★森が好きの人、植物や昆虫など生き物が好きの人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか
★参加を希望される方は 森人（もりひと）hashi-morihito@biwahaku.jp に連絡ください。



(23) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 一名】

グループ代表アドレス： hashi-ryozanpaku@biwahaku.jp

グループ担当職員：中井 克樹

【活動報告】

米原高校地学部は、今年、姉川の現生珪藻を調べています。8月1日、8月22日、9月12日の3回、琵琶湖博物館で研究相談と珪藻の同定の確認をしました。大塚が見たところでは、インターネット上のサイトと昨年の結果を参考にただで、8割を超える同定精度を達成しています。驚異の同定能力を誇った昨年の主力メンバーは受験のため引退、今、珪藻を調べているのは、珪藻を観察し始めて1年あまりの2年生です。毎年よく、ここまで珪藻の同定ができる高校生が出てくるなあ。

【活動予定】

高等学校の科学部がグループの主な構成員であるため、各学校では新型コロナウイルス感染症への対応でカリキュラムが過密となり忙しいと思われるかもしれませんが、質問や調べものためには訪問やメールなどで気軽にどんどん博物館を使ってください。今後も、社会状況の変化をみながら、活動を進めていきたいと考えています。



(24) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: hashi-salondekoryu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 戸田 孝

【活動報告】

8月14日(土)と9月12日(土)に例会を予定していたのですが、健康不調の方や新型コロナウイルスを警戒された方が多く、いずれも例会の体をなしませんでした。

7月の例会以降に個別に活動された方の報告は以下の通りです。

■ 7月18日(土)プランクトン調査

場所: 安曇川河口沖琵琶湖上

参加者: 1名 (はしかけ1名)

水温観測時に目視確認できる「潮目」を挟んだ水の色の違いがプランクトンの組成によるものかどうか確認するため、鈴木学芸員から借用した曳船用プランクトンネットを曳いてみたところ、組成の違いであるらしいことが確認できました。

【活動予定】

当面は原則として毎月第二土曜の午後に会合を持つことにしますが、10月はリニューアルのグランドオープンと重なるので、1週間延期して10月16日を予定しています。



(25) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ代表アドレス: hashi-mizu-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 楊 平

【活動報告】

■ 2020.7.20(月) 9:30-15:00 天候: 晴 参加者: 6名

①活動場所: 長浜・米原・彦根エリア

②調査目的: 同上エリアの湧水場所現地調査を行った。

◆1, 道の駅「おうみの母の郷」駐車場の湧水。

☞ 駐車場の入り口付近の湧水。オブジェ的に利用させていた。

◆2, 宇賀野湧水群 坂田神明手水・真名井の池・神明公園内湧水。

☞ 「まいばらの水」としての選定場所。世継カナボウ湧水と同系か？

◆3, 石田町坂下薬師如来堂の手水

☞ 石田三成生誕の地。現在は水道水。湧水利用は道路新設工事で没する。

◆4, 白谷尾小碓谷の春照湧水

☞ 「まいばらの水」としての選定場所。伊吹山系の伏流水か？

◆5, 神明神社の子宝の水

☞ 梓河内の集落の奥、民家が途絶えた林道にひっそり佇む神明神社に湧き出る湧水。

◆6, 河合不動明王の湧水

☞ 河内風穴の芹川の奥の山女原集落よりまだ奥にある大きな岩の下に源流があり神秘的なパワースポット感あり。

◆7, 河内風穴前喫茶店「風緑」の水

☞ 河内風穴は壺仙山塊よりの鍾乳洞であるがその地下水系を芹川の谷筋から喫茶店「風緑」が引き込んでいる湧水である。

以上7か所9場所での湧水実態調査を行なった。



神明神社「子宝の水」



河合不動明王の湧水

■ 2020.7.22(水) 9:30-15:00 天候:晴 参加者:6名

①活動場所:東近江市エリア

②-a 調査先:滋賀県立平和記念館(戦時下の暮らし調査と平和の大切さ)

- 県下や東近江市の戦時下の暮らしや現存する戦争遺産について館員より説明を受け館内を見学した。戦時下の暮らしとして食糧増産のため、彦根城の堀、地域溜池での養殖内湖の埋め立て。学徒動員、金属供出、信楽焼製手榴弾。

「戦争の記憶が遠ざかるとき、戦争がまた私たちに近づく」

石垣りんさんの詩の一部です。心打たれますね。

②-b 調査先:石塔寺

- 聖徳太子創建の伝承持つ古寺で本尊は秘仏聖観音像。山門から坂を上りつめたところに石造三重の阿育王塔が多く石塔群を従え、天を指すがごとく建つ。国内各地にある中世以前の石塔とは全く異なる様式で朝鮮半島の古代石造物に類似している感もあり。蒲生野に移住した渡来人の歴史との繋がりを強く感じる。



滋賀県立平和祈念館



石塔寺(阿育王塔)

③-c 調査先:野々宮神社の宮司からの東近江の昨今についてのお話拝聴。

- 野々宮神社の宮司は鈴鹿山系を歩き、地元古文書の造詣深く今日も伝承に活躍されている。
- ・ 八日市は交易の要地として繁栄した。江州商人の先駆けとして保内商人として伊勢、美濃、若狭、京都の中継ぎ商業に従事していた。
近隣には鋳物師など技術が必要な職種と材料が集まっていた。技術の源は、渡来人のこの地への移住と関係性は? 探ってみたいテーマか?
- ・ 鈴鹿の鋳山群。戦国時代の中期に君ヶ畑に銀山が発見されて以来、多くの鋳山が採掘されてきた。現在も鋳山遺構が数あるとのこと。
探ってみたいテーマか?
- ・ 風力を借りた「八日市大凧」とばしの行事から沖野原飛行場建設へなるほどの鈴鹿の風利用にはあっぱれ。
- ・ 君ヶ畑の木地師の里。木を伐りながら移動していく木地師集団。全国に惟喬親王を神と崇める信仰が広がっていった経緯も探ってみたいテーマか?

いずれにしてもこの地、東近江エリアには探ってみたいテーマが潜んでいる

■ 2020.8.26(水) 9:30-15:30 天候:晴 参加者:5名

①活動場所:東近江エリア、守山エリア

②-a 調査先:滋賀県ため池サポートセンター

●水田農業を主体とする我が国では、ほ場の拡大や土木技術の発達とともに農業水利施設を造成し水源として農業用のため池も数多く築造した。滋賀県下でも 1500 箇所存在している。「防災重点農業用ため池に係わる防災工事等の推進に関する特別措置法」がR2年6月12日に成立し、農業用ため池の適正な管理と保全を図る必要から滋賀県では滋賀県ため池サポートセンターを設立し支援体制を構築した。ため池の果たした役割は近代の水利事業のメインとなった各河川のダム構築で終えようとしているが歴史的にため池の果たした役割は「水とくらし研究会」としては探ってみたいテーマであり、今回の同センター訪問となった。センター長、主席参事様から同センターの取組状況の資料を交えて丁寧な説明を受け同、想いが強まった。

②b 調査目的：同上エリアの湧水場所現地調査を行った。

- ◆1, 守山ふれあい公園の湧水
 - 守山市のふれあい公園内にある。公園入口付近から結構の量の水が湧き出ている。その水は近くの池に流れ込んでいる。量は多い。
- ◆2, 豊穰の里の農業用水
 - 開発水土里保全推進会議所管の農業用水。旧野洲川南流堤防下の道路脇にポンプ小屋があり、大量の地下水をポンプUPして農業用水として近隣農地に放流している。



守山ふれあい公園の湧水



豊穰の里の農業用水

(本稿の執筆者：小篠)



(26) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 16名】

グループ代表アドレス: hashi-kaihin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

■観察日 令和2年9月29日(月) 晴れ 気温 28℃

参加者 清田・津田 計2名

*琵琶湖の水は透明に澄んでおり細波がたつ暑いぐらいの作業日。

観察状況

*ネナシカズラ駆除 4か所で繁茂の内3か所は前回と同じ場所。前回のような網状のツルはないが、ツルを伸ばしている。花が咲きだした。虫こぶも見られる。新たな個所は松の木にツルを伸ばしていた。種をつけないうちにこれからの観察と駆除が必要だ。

*東の浜に昨年まであった個所に、今年は見当たらない。浜欠で流されたのか？

*東の浜の、ムシトリナデシコ、宵待ち草、メリケンムグラ等の除草を行う。

海浜植物

*ハマエンドウ

・すっかり古い葉はなくなり新葉が広がり始めた。中央辺りは株数が少ないように思われる。

*ハマゴウ

・活きよいよく葉は広がり浜いっぱい枝と葉を広げている。花芽が出始め、咲かせている枝もある。

・保護柵の通路側松の木の下に3本のハマゴウがあった。以前からあったかな？

*ハマヒルガオ



今日の琵琶湖

・種だけが目立つ。浜の西側(近江八幡の方面)はまだ葉がついているが花は見当たらない。



ハマゴウが咲き始めた



新葉が大きくなったハマエンドウ



ハマヒルガオ・カワラナデシコ・
ハマゴウ(西の方の浜)



ハマゴウに巻き付くネナシカズラ



松の木に巻き付くネナシカズラ

■観察日 令和2年7月17日(金) 曇り一時雨 気温 25℃

参加者 阿部・小西・清田・松村・百木・津田 計6名

*連日の雨で水位は高く濁った琵琶湖。雨が心配だったが暑くもなく
全員集合の楽しい作業日。

観察状況

*ネナシカズラ駆除 4か所の内3か所は前回(6月29日)と同じ場所だが1か所
は新しい場所で保護区に近い松の木に巻き付いていた。
前回のうち1か所は消滅していた。前回、完全に駆除したはずだが2週間余りで
また繁茂している。しかし、繁殖範囲は狭まっている。根気強く駆除するしか
ない。いつも発生場所が曖昧なので次回は園芸棒を目印に立てることにしよう。

作業内容

*今回は主として浜のメリケンムグラ、保護区域通路側のハマゴウの撤去と通路の
雑草取り、及び保護区域内の雑草取りを主とした。

海浜植物

- *ハマエンドウ ・新葉は大きくなり広がりツルを出している。連日の雨のためか緑が濃く生き生きしている。
- *ハマゴウ ・活きよいよ葉は広がり浜いっぱい枝と葉を広げている。花は7分咲きといったところか。
満開まではいかない。・保護柵の通路側の3本のハマゴウを撤去した。
- *ハマヒルガオ ・緑の濃い葉があちこちに出ている。種からこぼれて出た新葉だろうか?雨で地下茎から出た新葉
だろうか?再度花が期待できそうだ?



今日の琵琶湖



浜いっぱい咲きだしたハマゴウ



新葉が大きくツルが出たハマエンドウ



ハマヒルガオは種だけになった

■観察日 令和2年7月30日(木) 雨のち曇り 気温 28℃

参加者 清田 小西 計2名

観察状況

*9時に現地に着した途端、本降りの雨の歓迎を受ける。

止むまで「車内」で待機する。やもうえない……？

作業内容

*ハマエンドウの保護域の入口周辺及び柵廻りを刈払い機 2 台で除草作業。

入口周辺は下草につる性の草が覆いかぶさり、結構難儀した。下草にあしなが蜂の巣があり、作業中の清田さんが一刺しの洗礼を受けた。

*ネナシカズラの駆除は最終的には7か所の群落を駆除しましたが、見落としの場所もあり複数回の確認作業が必須です。



今日の琵琶湖

■観察日 令和2年8月4日(火) 晴れ 気温 33℃

参加者 阿部・小西・清田・松村・百木・津田 計6名

観察状況

*水位は下がりさざなみがたつ静かな琵琶湖。

*浜にコマツヨイグサが目立つ。

*松の木の下は比較的涼しいが炎天下の作業日。

作業内容

1. ネナシカズラ駆除 (1か所)
2. 保護区の拡張と除草 (チガヤ、コマツヨイグサ、等)
3. 浜の外来植物の駆除 (メリケンムグラ、メドハギ、ムシトリナデシコ)

海浜植物

*ハマエンドウ ・新葉は大きくなり広がりツルが伸びているものもある。新しい芽も出ている。一方、葉が一部茶色くなっているものもある。種は見当たらない。

*ハマゴウ ・花の全盛期は終わり、種を付けつつ花が咲いている。葉が少し茶色くなっている枝もある。

*ハマヒルガオ ・花はなく、葉も枯れかけてきた。種もつけている。



今日の琵琶湖



ツルを伸ばしたハマエンドウ



種をつけたハマゴウ



葉が枯れたハマヒルガオ

作業後(保護区内除草と通路の拡張)



作業の様子



浜の外来種駆除



ネナシカズラ駆除



オオフタバムラムが咲き始めた

3. 生活実験工房からのお知らせ

9月6日には生活実験工房の田んぼで「みずかがみ」の稲刈り、はさ掛けを行いました！台風の影響で、開始直前まで小雨がぱらついていたのですが、作業開始後は雨が降ることは無く、無事作業を終えることが出来ました。暑かったですが、大人の方もお子様も皆元気に作業して頂きました。

そして、子供たちは作業終了後も、いつ終わることなく夢中で虫捕りを行っていました。

さて、10月～12月は生活実験工房では下記のとおりイベントを予定しています。ぜひ、ご参加くださいませ。



担当：交流係

【活動予定】

- 10月 4日 (日) 10:30～12:30 (受付 10:00～)
稲刈り、はさ掛け (晩稲品種) 先着 20 名
受付場所：生活実験工房
稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。
- 11月 22日 (日) 10:30～12:30 (受付 10:00～)
秋の昆虫採集 (現在ホームページでは先着順となっておりますが、事前予約制 (応募多数の場合は抽選) に変更予定です。詳しくは 10 月中旬以降に、ホームページのイベント情報のサイトにて、ご確認をお願い致します。
- 12月 20日 (日) 10:30～12:30 (受付 10:00～)
しめ縄づくり (現在ホームページでは先着順となっておりますが、事前予約制 (応募多数の場合は抽選) に変更予定です。詳しくは 10 月中旬以降に、ホームページのイベント情報のサイトにて、ご確認をお願い致します。

4. その他の事項

(1) メールアドレスとホームページアドレスの変更について

びわ博の情報システム変更にもなって、メールアドレスとホームページの URL が変更になりました。新しいメールアドレスは「***@biwahaku.jp」、ホームページは「<https://www.biwahaku.jp/>」です。なにか不備がありましたら、事務局までお問い合わせください。

(2) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス (各グループの報告欄に掲載) にご連絡ください。

(3) 名札 (会員証) の写真について

名札 (会員証) の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(4) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(5) はしかけ活動中に事故が起ったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先 (社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923) へ、速やかに連絡してください (各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者 (学芸員) の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局 (博物館事務学芸室) にも置いています。